

夢見への現象学的・現存在分析的アプローチ

静 智 明

筆者は、本研究において、現存在分析という心理療法の夢分析の方法についての文献研究と実験研究とを行った。現存在分析は、マルティン・ハイデッガーの現存在分析論をその理論的な拠りどころとした心理療法の理論かつ実践であり、ドイツの精神科医であり心理療法家でもあったメダルト・ボスによって創始された。ボスは、フロイトの精神分析理論に基づく自然科学的人間観をハイデッガーの人間観で置き換え、精神分析理論の様々な概念（無意識、抑圧、転移、抵抗）を現存在分析論の観点から読み直し、精神分析理論を一新しようと試みた。実践では、主に夢分析がなされている。日本の臨床心理学の世界にボスの現存在分析が紹介されたのは1970年代のことであり、本邦ではボスの著作のうちその一部が翻訳されている。ただし、夢分析に関するボスの理論的な著作“Der Traum und seine Auslegung”は邦訳（“夢—その現存在分析”）されているものの、実際の心理療法において、ボスがクライアントの夢をどのように利用するのかについて具体的に述べている重要な著作“Es träumte mir vergangene Nacht, …（私は昨日夢を見た…）”はいまだ邦訳されておらず、その存在すらほとんど知られていない。さらに、ボスの夢分析の方法そのものについての研究も数少ないという問題もある。ちなみに、これらの研究においても前述の重要な著作の内容について具体的に紹介しているものは皆無である。ボスの夢分析の方法について、その理論的な側面に関してもまたその実践的な側面に関しても、本邦では体系的な研究はいまだなされていないと言っていいだろう。筆者は、本研究において前述のボスの重要な著作とともに、夢分析に関するボスの原著及び原著論文（独語あるいは英語の未邦訳のもの）を含めたボスのテキストをレビューすることによって、彼の夢分析の方法論を明らかにし、その問題点についても指摘した。その上で、より臨床実践に適った現存在分析的夢分析のモデルを提示した。実験研究では、実験協力者に依頼してこの新しいモデルに基づいた夢分析（夢面接法）を実施し、このモデルの有用性について検証しようと試みている。

ボスは、夢見しているときも、目覚めているときと同様、人間は、かくかくしかじかの在り方でさまざまな存在者（他者、動物、物など）に関わって存在している、とした。そして、夢の中に読み取れる、夢み手の神経症的な（不自由な）在り方を夢み手に繰り返し指摘することで、夢み手を不自由な在り方からより自由な在り方へ眼を向けさせようと試みたのであった。つまり、ボスの夢分析とは、抵抗分析に他ならなかったのである。ボスの夢分析の問題点は、現象学をその方法論としているボス自身が、自らの価値観の先入見によってとらわれてしまっていた、という点である。夢面接では、ボスのように聞き手の夢理解（現象学的概念）を押しつけるのではなく、夢の理解を夢み手自身に委ねること（現象学的方法）で、夢み手自身のリアルな気づきへとつながったと思われる。